

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立勝加茂小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐつまずき解消	①学力向上担当者 ②各担任 ③授業改革推進委員	①全国学力・岡山県学力調査の問題分析から見える授業改善についての研修を行い、改善を目指す。 ②授業→家庭学習→小テスト→補充学習を意識した学びのサイクルの徹底、家庭学習を支える自学ノートにつなげるため、「めあて」や「考え方」「まとめ」などの板書づくりに取り組む。 ③苦手とする領域を克服するための授業改革、宿題作成に取り組む。	学年末までに。	①全職員でつまずき傾向と対策を考え分析し、日々の授業にどのように生かすか、学年間で共通して取り組む。 ②毎週水曜日の朝学習に「四則計算」の学習、金曜日に「漢字を書く」学習に取り組む。間違えたところを繰り返し練習することで、定着を確実に進める。 ③週末には記述式で解答する「週末課題」を高学年を中心に取り組む。	①国語や算数(数学)の授業がわかると回答する児童の肯定的な回答が70%以上。 ②前学年の計算・漢字ができる児童が80%以上。 ③週末課題を含む家庭学習に取り組む児童の割合が90%以上。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	①生徒指導担当、各担任 ②勝北ブロック担当	①情報モラル指導、家庭、地域を巻き込んだノーマディアの取り組み①自主学習の習慣化をめざした取り組み。	学年末までに。	①学校だよりや学級通信、学級懇談等で家庭学習(自主学習)をがんばっている子どもたちの様子を紹介する。スマホやゲーム等、長時間使用による体への悪影響を伝えることで使用時間厳守の啓発。勝北ブロック全体で同じ時期にノーマディアの取り組みチェック	①家庭学習を1日当たり、決められた時間以上する児童の割合→80%以上とする。 ②スマートフォンやゲーム等の使用時間を1日2時間以内とする児童の割合→70%以上とする。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
<p>全国【6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語の「読むこと」の領域が全国平均とくらべると正答率が高い。本校84.1%(全国81.7%) ○国語→漢字を書く、本の目次の活用については県平均より正答率が高い。 ○算数では、必要な数量を選び立式する問題が全国平均より高い。本校76.2%(全国68.6%) ●全体の正答率は、国語、算数とも全国平均と比べると2～3ポイント程度、低い。 ●国語、算数とも記述式の解答が課題である。 <p>県【3年～5年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語の言語についての知識、理解、技能(漢字を読んだり、書いたりすること)は、県平均を上回ったり、昨年度より縮まった。本校60.0%(全国58.5%) ○算数では、かけ算、わり算などの基礎基本問題で正答率100%のものがある。 ●記述問題では、4行～7行、46字以上105字以内など与えられた条件を満たして自分の考えを文章で書くことに課題がある。本校65.8%(全国73.5%) ●算数では「示された資料から関連付けで式を導き解答していくこと」に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が本校71.5%であり、全国平均(66.9%)に比べて高い。 ○家庭で計画を立てて学習している割合も高い。本校(全国平均2.3%) ○算数は大切だと考えている児童の割合が高い。本校85.7%(全国75.6%) ○「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒は47.6%で、県の平均41.6%や全国平均38.8%に比べ高い数値となっている。 ○先生に認められていると感じている児童の割合がとて高い。本校66.7%(全国43.1%) ○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」割合が全国平均より20%以上高い。 ○地域の行事に積極的に関わっている児童の割合が高い。本校76.2%(全国37.2%) ●国語の授業で学習したことは将来役に立つと思っている児童の割合が低い。本講42.9%(全国64.2%) ●平日に全く読書しない児童の割合が高い。本校38.1%(全国18.7%)

成果 課題

<p>【学力状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内研修等で、児童の学習状況の交流を図り、授業改善を進めていたことが成果へとつながってきた。 ○朝学習で前学年までの漢字・計算問題に取り組み、間違えたところを繰り返し練習していった結果、基礎基本の定着に繋がった。 ○家庭学習では、どの学年も音読、漢字、計算(算数)を毎回出した結果、学習した内容の確実な理解へと繋がった。 ○授業の始まりや宿題等で問題データベースを活用してきたことで基礎問題の定着に役立っている。 ○授業の振り返りを書いたり、3行日記を書いたりすることで短文で解答する問題は、以前より抵抗感が少なくなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文章を読みとり、条件に合った文章を書いたり、計算式を導きだし立式したりするなど、国語・算数とも活用型の問題を苦手とする児童が多い。 ●与えられた条件を満たし文章で解答する問題については、文章化することが難しく、解答までに時間がかかってしまう。 ●国語では、ローマ字や比較して読み取る問題、ポスター案を読み取る問題など幅広い知識の定着が必要である。 ●算数では、位取りに関する問題、時間と時刻に関する問題を苦手としている児童の割合が高い。 ●読書は好きだと答える児童は多いが、平日の読書量や新聞を読む児童の割合は低い。
---	---

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
現学年までに学習する漢字の読み書きができる。	学年末まで	全学年、平均正答率80パーセント以上	データベースを全学年で活用したり、朝学習でのプリント学習 授業の中で前時に学習したことの振り返り、単元終了後のテスト、学期末ごとの評価テストを行ったりする。					
現学年までに学習する、整数、小数、分数の四則混合計算、空位のある計算、波及的繰り下がりの計算問題ができる。	学年末まで	全学年、平均正答率80パーセント以上	データベースを全学年で活用したり、朝学習でのプリント学習 授業の中で前時に学習したことの振り返り、単元終了後のテスト、学期末ごとの評価テストを行ったりする。					
考えて「書く」こと、文章(問題)を読んで「書く」ことができるようにする。	秋チェック実施まで	秋チェックでの記述問題の正答率を70%以上とする。	授業中の「まとめ」や「振り返り」を児童に考えさせる時間の確保。書いたことを発表させ共有させたり、書き方の紹介をさせたりする。*週末課題として、記述問題に取り組ませる。(授業改革推進委員と連携して)					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組 保護者・地域へ理解・協力を求めること

<ul style="list-style-type: none"> ○勝北ブロック間において、各校の学力向上に向けての取り組みの共有化 ○こども園、小学校、中学校による授業公開、情報交換 ○県・全国学力学習状況調査の分析を基に、中学校ブロックでの学習状況の交流を進める。 ○勝北ブロック間でのノーマディアの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○通信、懇談、学校評議委員会などで、子どもたちの様子を伝え、学校としてどんな子どもに育てていきたいのか、しっかり伝える。 ○学級懇談や個人懇談などで、家庭学習の取り組みの協力を呼びかけると共に、校内研修時にも取り組みと成果の共有化を図る。 ○ノーマディアの取り組みを家庭・地域を巻き込んで行う。
--	---